

近年鶴岡地域でも、高齢化が進んできたことや、癌に罹患する人の増えなどから、歯科医療への期待は虫歯や歯周病の予防

・治療、失われた噛み合わせの回復といった従来の役割に留まらない、健康寿命の延長というものに変化してきています。

そこで歯科医院での治療・口腔ケアだけではなく、在宅や病床といった場面での介護やケアに関わる多職種のスタッフの方々と連携を求められることも多くなってきました。

私たち歯科医師会では医療連携推進のための委員会を設置し、医師・薬剤師・看護師・介護スタッフ・ケアマネージャーなどの地域在宅医療を担っている人たちとの連携を密に行う努力を全体で取り組んでいます。厚生労働省の在宅医療連携拠点事業を受けて設立された「ほたる」を窓口に、在宅でも歯科医療が提供されることを広報したり、連携を求められる各種団体間で共催の研修が行われることが増えて、地域住民の皆様へのサービス体制が充実してきています。また、癌に罹患された方のサポートとして術

前・術後の歯科治療や口腔ケアが荘内病院と密に連絡を取り合える仕組みも構築されています。

口腔ケアによる細菌の

人は心内膜炎でプラークが検出される率が高い

○誤嚥性肺炎では口腔内細菌が認められる

○糖尿病の血糖値管理には歯周病の治療が欠かせない(プラークの内毒素が血糖値をコントロールするインシュリンの働きを阻害するため)

○アルツハイマー病患者で、ある口腔内細菌種の内毒素が高濃度に検出される

○インフルエンザに対する薬が口腔ケアをしないで見ると効果が低下する

○歯周病原菌の内毒素が多いと早産・低体重児のリスクがある

【健康に長生きをする事を支える歯科医療】を目指すというテーマで歯科医師会は全身の健康の増進に寄与する歯科治療・口腔ケアのあり方を学び実践していますが、その実現には多くの職種の方々と連携が不可欠です。そのためは仕組みづくりに関しては行政や医療・看護・介護に関わる方々に今後多くのご助力を頂くこととなりますが、共に推進していければと考えています。

11月8日 いい歯の日

医療連携における歯科医療

除去が、全身の健康に大きく影響するといった知見が明らかになってきています。少し紹介すると、○4ミリ以上の歯周ポケットが4力所以上ある